

事前評価個表

事業名	森林環境保全整備事業（国有林）	事業計画期間	平成31年度～平成35年度（5年間）												
事業実施地区名 （都道府県名）	（かみかわなんぶ） 上川南部森林計画区 （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 かみかわちゆうぶ 上川中部森林管理署 かみかわなんぶ 上川南部森林管理署												
事業の概要・目的	<p>本計画区は、北海道のほぼ中央部に位置し、全国森林計画で定める石狩川流域のうち上川総合振興局管内南部の2市9町1村で構成されている。</p> <p>対象とする国有林面積は275千haであり、冷温帯から亜寒帯域に位置している。その8割がトドマツ、エゾマツ、アカエゾマツ等の針葉樹と、ミズナラ、シナノキ、カンバ類等の広葉樹からなる針広混交林、及び針葉樹を主体とする天然林が占めており、大雪山森林生態系保護地域、大雪原生林生物群集保護林等学術的に貴重な森林も多い。</p> <p>森林の2割は主に昭和30年代以降に造成されたトドマツ・カラマツ等の人工林で、厳しい気象条件の影響等から、高標高地等の人工林等においては、期待した成長が見込めず、天然広葉樹との混交林化が進んでいる林分も見受けられる。そのうち間伐の対象となる林分が約8割となっており、今後は主伐対象となる林分も増え、併せて更新面積の増加が見込まれることから、森林整備の重要性が高くなっている。</p> <p>本計画区内の森林については、大部分が水源かん養保安林となっており、流域内のみならず、下流域である道央地域の水源として、また、基幹産業である農業の振興に資する観点で重要な役割を担っていることから、水源涵養の役割の発揮が求められている。</p> <p>一方、本計画区は十勝岳をはじめとする道内有数の火山地帯であり、大正15年の十勝岳火山泥流災害をはじめ数次の火山災害が発生しており、森林による泥流緩衝効果も期待されることから、山地保全の役割の発揮も強く求められる地域である。</p> <p>林業・木材産業は、地域の豊富な木材資源を背景として、農業に次ぐ第一次産業として発展してきたところである。特に中核都市である旭川市は、木製品・パルプ等の木材加工業が発達しており、道北地域の木材産業の拠点となっている。今後も木材の安定供給を通じ、地域産業の振興に寄与することが期待されている。</p> <p>また、本計画区では大雪山系、夕張山地を中心として優れた山岳景観を有し、大雪山国立公園、富良野芦別道立自然公園が指定されており、山岳、温泉等の観光資源に恵まれていることから、道内外から多くの観光客が訪れている。</p> <p>本事業は、これまでの評価結果を踏まえ、地域の期待に応えるとともに、伐採と造林の一貫作業や植付効率の向上等の効果が期待されるコンテナ苗の導入等を図り、低コストで効率的な作業システムを確立しながら、地球温暖化防止にも積極的に寄与するために必要な植栽等の更新作業、間伐等の保育作業及び効率的な森林整備を推進するための路網整備を実施する。</p> <p>主な事業内容</p> <table border="0"> <tr> <td>森林整備</td> <td>更新面積</td> <td>611 ha</td> </tr> <tr> <td></td> <td>保育面積</td> <td>19,731 ha</td> </tr> <tr> <td>路網整備</td> <td>開設延長</td> <td>49.4 km</td> </tr> <tr> <td></td> <td>改良延長</td> <td>5.8 km</td> </tr> </table> <p>総事業費 5,792,515 千円（税抜き 5,363,440 千円）</p>			森林整備	更新面積	611 ha		保育面積	19,731 ha	路網整備	開設延長	49.4 km		改良延長	5.8 km
森林整備	更新面積	611 ha													
	保育面積	19,731 ha													
路網整備	開設延長	49.4 km													
	改良延長	5.8 km													

費用便益分析	総 便 益 (B)	35,681,268 千円
	総 費 用 (C)	7,629,776 千円
	分析結果 (B/C)	4.68
森林管理局事業評価 技術検討会の意見	事業の必要性、効率性、有効性が認められることから、本事業を実施することが妥当であるとする。	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要性： 本地域は、大半が水源かん養保安林に指定されており、地域の水源地としての役割や、地域の基幹産業である農業等に資する観点から、水源涵養の役割を果たすことが期待されている。また、火山や急峻な地形もあることから、山地保全の役割が求められている地域であり、地球温暖化防止対策や広葉樹を含む木材の安定供給と有効活用のほか、保健文化機能の維持等に寄与する観点からも事業の必要性が認められる。 ・ 効率性： 現地の地形・地質状況に適した工種及び作業仕様での路網の開設・改良によって森林整備実施箇所へのアクセスを向上させ、森林整備においても現地状況に応じた更新・保育作業を効率的に行うことによりコストの増加を抑えていくこととしており、費用便益分析の結果からも、事業の効率性が認められる。 ・ 有効性： 本事業により、森林が健全な状態に維持され、水源涵養、山地保全、地球温暖化防止等の公益的機能の発揮が期待される。また、効率的な森林整備により、地域の基幹産業である農業の振興にも資することから、事業の有効性が認められる。 <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用便益分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に評価したところ、森林の重視すべき機能（特に水源涵養）に応じた適切な森林整備及び路網整備が効率的に計画されていると認められる。</p>	

事前評価表

事業名	森林環境保全整備事業（国有林）	事業計画期間	平成31年度～平成35年度（5年間）												
事業実施地区名 （都道府県名）	（あばしりせいぶ） 網走西部森林計画区 （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 あばしりせいぶ 網走西部森林管理署 網走西部森林管理署西紋別支署												
事業の概要・目的	<p>本計画区は、北海道北東部のオホーツク海側に位置し、全国森林計画で定める網走・湧別川広域流域のうちオホーツク総合振興局管内北西部の1市3町で構成されている。</p> <p>対象とする国有林面積は191千haであり、森林の7割がミズナラ、シナノキ、カンバ類等の広葉樹とトドマツ、エゾマツ等の針葉樹が混交する天然林で占められ、残り3割が主に昭和30年代以降に造成されたトドマツ、カラマツ、アカエゾマツ等の人工林で、このうち間伐の対象となる林分が約7割となっており、今後は主伐対象となる林分も増え、併せて更新面積の増加が見込まれることから、森林整備の重要性が高くなっている。</p> <p>本計画区内の森林については、大部分が水源かん養保安林に指定されており、地域の水源として、生活水の供給源となるとともに、基幹産業である農業及び水産業の振興に資するなど重要な役割を担っていることから、水源涵養、山地災害の防止等の役割の発揮が求められている。</p> <p>この地域は、従来から豊かな森林資源を利用して林業・木材産業が発達してきたところであり、近年は、森林認証の取得を拡大し、森林の整備、加工流通体制の整備等を進めるとともに、オホーツクブランド材の普及に向けた取組を行っている。</p> <p>特に木材加工業では建築用材等の生産が盛んであるほか、木楽館（遠軽町）や森の美術館（西興部村）等、市民や観光客等が森林や木材と親しむことができる施設も整備されている。また、木質バイオマスのエネルギー利用についても、活発な動きが出てきていることから、今後も木材の安定供給を通じ、地域産業の振興に寄与することが期待されている。</p> <p>一方、本計画区の国有林には網走国定公園のほか、優れた山岳景観を有し道立自然公園に指定されている天塩岳等があり、温泉施設、溪谷や滝等豊かな森林景観と豊富な観光資源にも恵まれている地域である。</p> <p>本事業は、これまでの評価結果を踏まえ、地域の期待に応えるとともに、伐採と造林の一貫作業や植付効率の向上等の効果が期待されるコンテナ苗の導入等を図り、低コストで効率的な作業システムを確立しながら、地球温暖化防止にも積極的に寄与するために必要な植栽等の更新作業、間伐等の保育作業及び効率的な森林整備を推進するための路網整備を実施する。</p> <p>主な事業内容</p> <table border="0"> <tr> <td>森林整備</td> <td>更新面積</td> <td>663 ha</td> </tr> <tr> <td></td> <td>保育面積</td> <td>16,939 ha</td> </tr> <tr> <td>路網整備</td> <td>開設延長</td> <td>37.4 km</td> </tr> <tr> <td></td> <td>改良延長</td> <td>0.1 km</td> </tr> </table> <p>総事業費 7,551,201 千円（税抜き 6,991,853 千円）</p>			森林整備	更新面積	663 ha		保育面積	16,939 ha	路網整備	開設延長	37.4 km		改良延長	0.1 km
森林整備	更新面積	663 ha													
	保育面積	16,939 ha													
路網整備	開設延長	37.4 km													
	改良延長	0.1 km													
費用便益分析	総便益（B）	28,872,424 千円													
	総費用（C）	10,127,004 千円													
	分析結果（B/C）	2.85													

<p>森林管理局事業評価 技術検討会の意見</p>	<p>事業の必要性、効率性、有効性が認められることから、本事業を実施することが妥当であると考えます。</p>
<p>評価結果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性： 本地区は、大部分が水源かん養保安林に指定されており、地域の水源地としての役割や、地域の基幹産業である農業や沖合底引き網、ホタテ貝及びサケ定置網を中心とした漁業と、湖沼を利用した養殖漁業の漁場保全等に資する観点から、水源涵養の役割を果たすことが期待されている。また、急峻な地形もあることから、山地保全の役割が求められている地域であり、地球温暖化防止対策や木材の安定供給のほか、保健文化機能の維持等に寄与する観点からも事業の必要性が認められる。 ・効率性： 現地の地形・地質状況に適した工種及び作業仕様での路網の開設・改良によって森林整備実施箇所へのアクセスを向上させ、森林整備においても現地の状況に応じた更新・保育作業を効率的に行うことによりコストの増加を抑えていくこととしており、費用便益分析の結果からも、事業の効率性が認められる。 ・有効性： 本事業により、森林が健全な状態に維持され、水源涵養、山地保全、地球温暖化防止等の公益的機能の発揮が期待される。また、効率的な森林整備により、地域の基幹産業である農業や漁業の振興にも資することから、事業の有効性が認められる。 <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用便益分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に評価したところ、森林の重視すべき機能（特に水源涵養）に応じた適切な森林整備及び路網整備が効率的に計画されていると認められる。</p>

事前評価表

事業名	森林環境保全整備事業（国有林）	事業計画期間	平成31年度～平成35年度（5年間）												
事業実施地区名 （都道府県名）	（とちかち） 十勝森林計画区 （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 とちかちとうぶ 十勝東部森林管理署 とちかちせいぶ 十勝西部森林管理署 ひがしだいせつ 十勝西部森林管理署 東大雪支署												
事業の概要・目的	<p>本計画区は、北海道の南東部に位置し、全国森林計画で定める十勝・釧路川広域流域のうち十勝総合振興局管内の1市12町2村で構成されている。</p> <p>対象とする国有林面積は約419千haであり、森林の86%がトドマツ、エゾマツにミズナラ、シナノキ、カンバ類等が混交する針広混交林等の天然林で占められ、残りの14%がトドマツ、アカエゾマツ、カラマツ等の人工林で、このうち間伐の対象となる林分が約8割となっている。今後は主伐対象となる林分も増え、併せて更新面積の増加が見込まれることから、森林整備の重要性が高くなっている。</p> <p>十勝川に代表される水系は、本流域の基幹産業である農業をはじめ、水力発電及び地域住民の生活用水等として利用されるとともに、これらの河川が注ぐ沿岸部は寒暖2海流が交錯する好漁場であり、これらの水系の上流部に広く所在している国有林は、流域内の水源林として重要な役割を担っている。</p> <p>また、この地域は民有林も含め道内の主要な木材生産地帯であり、製材生産量及びチップ生産量はそれぞれ道内生産量の25%を占めており、今後も木材の安定供給を通じ、地域産業の振興に寄与することが期待されている。</p> <p>一方、日高山脈森林生態系保護地域、大雪山森林生態系保護地域等の保護林や、十勝川源流部原生自然環境保全地域など、学術的に貴重な森林も多く、大雪山国立公園、阿寒摩周国立公園及び日高山脈襟裳国立公園に指定された国有林は、山岳、溪谷、森林景観、温泉等の観光資源に恵まれていることから、広大な十勝平野の田園風景と併せて、観光地や登山、スキーなど森林を利用したレクリエーションや保健休養の場として、道内外から多くの観光客が訪れている。</p> <p>本事業は、これまでの評価結果を踏まえ、地域の期待に応えるとともに、伐採と造林の一貫作業や植付効率の向上等の効果が期待されるコンテナ苗の導入等を図り、低コストで効率的な作業システムを確立しながら、地球温暖化防止にも積極的に寄与するために必要な植栽等の更新作業、間伐等の保育作業及び効率的な森林整備を推進するための路網整備を実施する。</p> <p>主な事業内容</p> <table border="0"> <tr> <td>森林整備</td> <td>更新面積</td> <td>4,567 ha</td> </tr> <tr> <td></td> <td>保育面積</td> <td>42,128 ha</td> </tr> <tr> <td>路網整備</td> <td>開設延長</td> <td>27.4 km</td> </tr> <tr> <td></td> <td>改良延長</td> <td>1.5 km</td> </tr> </table> <p>総事業費 12,818,086 千円（税抜き 11,868,599千円）</p>			森林整備	更新面積	4,567 ha		保育面積	42,128 ha	路網整備	開設延長	27.4 km		改良延長	1.5 km
森林整備	更新面積	4,567 ha													
	保育面積	42,128 ha													
路網整備	開設延長	27.4 km													
	改良延長	1.5 km													
費用便益分析	総便益（B）	65,337,833 千円													
	総費用（C）	18,456,039 千円													
	分析結果（B/C）	3.54													

<p>森林管理局事業評価 技術検討会の意見</p>	<p>事業の必要性、効率性、有効性が認められることから、本事業を実施することが妥当であると考える。</p>
<p>評価結果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性： 本地域は、大半が水源かん養保安林に指定されており、地域の水源地としての役割や、地域の基幹産業である農業や沿岸・沖合漁業が盛んな太平洋側の漁場の保全等に資する観点から、水源涵養の役割を果たすことが期待されている。また、火山や急峻な地形もあることから、山地保全の役割が求められている地域であり、更には、地球温暖化防止対策や木材の安定供給のほか、保健文化機能の維持等に寄与する観点からも事業の必要性が認められる。 ・効率性： 現地の地形・地質状況に適した工種及び作業仕様での路網の開設・改良によって森林整備実施箇所へのアクセスを向上させ、森林整備においても現地状況に応じた更新・保育作業を効率的に行うことによりコストの増加を抑えていくこととしており、費用便益分析の結果からも、事業の効率性が認められる。 ・有効性： 本事業により、森林が健全な状態に維持され、水源涵養、山地保全、地球温暖化防止等の公益的機能の発揮が期待される。また、効率的な森林整備により、地域の基幹産業である農業や漁業の振興にも資することから、事業の有効性が認められる。 <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用便益分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に評価したところ、森林の重視すべき機能（特に水源涵養）に応じた適切な森林整備及び路網整備が効率的に計画されていると認められる。</p>